



環境リスクPress

土壤汚染関連ニュース

2021年8月

問題の四街道ごみ施設にて市民からの監査請求

四街道市の次期ごみ処理施設を巡る問題に関連し、8月3日市民96人が、「施設の計画地に土壤汚染や余分な残土が搬入されたのは自治体の首長の善管注意義務違反に当たる」として、佐渡斉市長に損害賠償として少なくとも約16億円を支払わせる手続きを取るよう市に求める住民監査請求を行った。2016年2月15日当時、造成工事で残土条例の特定事業許可の適用を除外とし、計画地の土壤汚染や余分な残土搬入を招くなどの債務不履行があったとしている。市は既に、造成工事を担当した業者らを相手取り撤去費用約20億円を求めている訴訟を起こしている。本計画は2021年10月稼働を目指し、同市吉岡の土地4500㎡に総事業費230億円にて80t/日のごみ処理施設を新設するものであった。2016年2月から埋立が始まったが、用地の造成を名目に汚染された大量の建設残土(21万㎡以上)が搬入されていたことが判明、土壤汚染対策法により汚染土を除去するまで再開できない状態が続いている。同問題では、市が3千㎡を超える土地の形状変更での土壤汚染対策法に基づく県事前届け出を怠っていた事実も認定されている。

環境リスク関連ニュース

2021年8月

カネミ油症事件 次世代調査開始

1968年に発生した食品公害カネミ油症事件(皮膚症状や内臓疾患の被害訴え1.4万人、認定患者2353人)で、全国油症治療研究班は被害者の子や孫を対象にした初めての「次世代調査」を始めた。対象は全国で約300人を見込み、全国の認定患者約1500人に8月から調査票を発送。健康状態や病歴などを調べ、患者認定基準の見直しも視野に、健康被害の実態把握を進めていき、来年2月の中間報告を目指す。昨年実施の事前調査でも、直接油を摂取していない患者の子や孫の次世代でも、認定患者と同様の症状が確認されており、調査結果は救済につながる科学的根拠として活用していく狙いがある。

アスベスト関連ニュース

2021年8月

(株)3DM アスベスト抗がん剤治療薬共同開発の取組

株式会社スリー・ディー・マトリクス(JASDAC)は、国立大学法人広島大学大学院医学系科学研究科 田原栄俊教授らの研究グループと共同で悪性胸膜中皮腫に対して顕著な治療効果のある核酸医薬の抗がん剤開発に成功した。アスベストを原因として曝露から数十年で発症するがんでもあり、効果的な治療法の無い難治性のがんでもあり、今後2030年頃が発症ピークでは年間3000人以上の罹患、そして2039年迄に累計志望者数は10万人を超えることが予測される。

中銀カプセルタワービル2022年解体に向けた保存の取組

銀座8丁目に立つ建築家・黒川紀章の代表作「中銀カプセルタワービル」(1972年)について、2022年の解体が近付いているが、そのカプセルユニット保存の取組が始まっている。課題となっているのは、壁の内側にある鉄骨への吹付アスベストと外壁のアスベスト含有建材で、解体作業時の除去作業でのオリジナルパーツが破損する恐れがあることである。そのなかには、クラウドファンディングにて資金を集め、自らアスベスト除去して保存に取組もうとする人達もあらわれてきている。世界発のカプセル型集合住宅として世界的にも注目を集め、建築運動「メタボリズム(新陳代謝の意)」の「カプセル宣言」での建築としてファンも多く、今後の動向にも注目が集まる。

環境リスク関連ニュース

2021年8月

静岡県 盛り土の緊急調査で82か所の異常を発見

2021年7月3日発生の静岡県熱海市伊豆山地区を襲った土石流災害。死者・行方不明者27人と重大な人災となり、静岡県でも県内343か所の盛り土を調査したところ、82か所の法面の崩落などの異常が確認された。異常が確認された盛り土の事業者や土地の所有者に改善するようは正指導を行い、3カ所では完了。市や町が関係する70カ所のうち市や町独自の基準で公表を検討している盛り土が10カ所ほどあるということである。

過去の環境リスクPressはこちらから [環境リスク.COM](http://www.kankyorisk.com) <http://www.kankyorisk.com>

【発行】 アスベックス株式会社

〒194-0023 東京都町田市旭町2-7-8

[TEL]042-726-0744 [FAX]042-726-0726